

新雪織つて

巻機山

1995・2・18～19

鈴木鉄也, (永野, 田鍋, 荒木, 古谷野)

ワカンのラッセル訓練と、雪洞で飲み会しようという誘いがあった。場所が巻機山となればと1人スキー持参。大宮1時10分発の急行シーハイルに乗る時間まで、大宮駅の通路脇に車座になってビール飲み。

2/18 (土)・・・雪

次の乗り換え、大沢駅の近くになって目が覚めると外は雪模様。六日町の待合室で身支度し、タクシーで清水まで入る。3m程の雪の壁を越えて歩き出す。当然だろうが、スキーが先頭になる。途中いったん道路に合流して、米子沢橋から斜面を上がる。傾斜も急になり、雪も深くキツくなってくる。4人でのワカンのラッセルルートはずれて、緩めにキックターンしながら行く。

井戸の壁の下で、左からりっぱな踏跡が出くわす。井戸の壁で10数人のパーティーが1本スキー板を無くしたと探し回っていた。その上は暫くスキーで滑った跡がまばらに残っていた。

腰まできそうなワカンのラッセルでは、ピッチも上がらなくなってくる。もう一つ上の急な斜面を上り切る辺りで、米子沢寄りの斜面に雪洞を掘ることにした。もう少し雪が盛り上がった場所が欲しかったが、柔らかめの雪で1時間もすると、5～6人がくつろげるスペースを掘り出せた。よく見ると所々、入口側の天井から外の明るさが透けて見えていた。中でツェルトを被ってコンロを炊いた。結構濡れたものが乾いてしまう。

ブランディ、リキュール、焼酎と飲み捲る。太いの細いの、赤いの白いの黄色いのと色・形の違う何本かのロウソクを回りに立てて、?宗教まがいの様相に笑ってしまった。シュラフに入る。出した顔に、雫が天井から落ちて鼻やら目に当たる。少し移動して暫くの間、口を開いてその水滴を飲み続けた。

1時頃に、隣が耐え切れずに起き出した。天井が30cm程、入口側半分、垂れ下がってしまった。垂れた水がシュラフにかかったり、シートに溜って水たまりとなり、靴下はもちろん、シュラフの中に入れたインナーブーツまでグショ濡れになってしまう。

大宮	⇒	大沢	⇒	六日町	⇒	清水	→
1:10		6:48	6:59	7:08		8:30	

→	1,100m付近	→	1,500m付近	→	雪洞完成
	12:00		14:50		16:20

2/19 (日) . . . 雪

朝起きて、天井を薄く削り落としていくと、一本大きな亀裂が見つかった。外から見ても大きくへこんでいる。何んとか朝まで落ちずに持ち堪えた。昨日よりは天気が良いだろうと思っていたら、ガスッていて、出発間際に雪が降り始める。

1ピッチ程、風の強い分だけ締まった雪を踏みしめて、快調に登る。もう森林限界となり、辺りは何も見えなくなりここで引き返すことにした。

昨日のトレースは消えているので、所々に立てた篠竹や赤布を頼りに下っていく。

1,400m辺りで少し迷う。深雪の中でも左右に動くのはスキーの方が楽なので、動き回り、小さな赤布を確認するのに少し下ったら、コールしても届かないので登り返す。井戸の壁の上あたりから、雪質が一層柔らかくなり、快適に滑る。2人組とスレ違う。

民宿「泉屋」でタクシーを呼ぶのに電話を借りようとしたら、中に入ってお休み下さいと、親切なお言葉。ビールを5本飲んでしまう。六日町で電車の時間を調べてから温泉旅館に電話して営業してるかを聞いて、入浴。

ラーメン屋に入って、またビール。石打、宮前と乗り継ぐ度にビールを買い込んで飲んでもらえる。

起床	・	出発	→	1,590m付近	→	清水部落	⇒	六日町	⇒	上野
5:00		7:30		8:10		11:00		12:30	14:28	18:59

